

# 万年地区



## 【地区の自然環境概要】

万年地区は、海及び街の要素を持つ地区です。

南側で 1km にわたり相模湾に面する海岸は、半自然の砂浜海岸が残っており、海浜を好む動植物の生育・生息の場となっています。また、広大な海は魚類等の動植物の生育・生息の場となっています。

かまぼこや干物などの水産加工品の店舗も並んでおり、海のなりわいを感じることができます。

住宅地が多いため、市街地や住宅地を好む動植物の生育・生息の場となっています。



## 【地区で見られる動植物】

市街地の中にある緑は動植物にとっての大切な生育・生息の場です。また、近接する水辺環境を利用する動植物も見られます。

- 市街地の神社・寺院では、アオダイショウやシロマガラなどの爬虫類も多く確認され<sup>1</sup>、ツバメやスズメ、ウグイス等の鳥類やニホンヤモリ等の爬虫類など、市街地から里地里山にかけてよく見ることのできる身近な種も確認されています。<sup>2</sup>
- 河口部や海岸に近接しており、市の鳥であるコアジサシ（絶滅危惧種）等の砂礫や海岸を利用する希少な鳥類も確認されています。<sup>3</sup>



スズメ



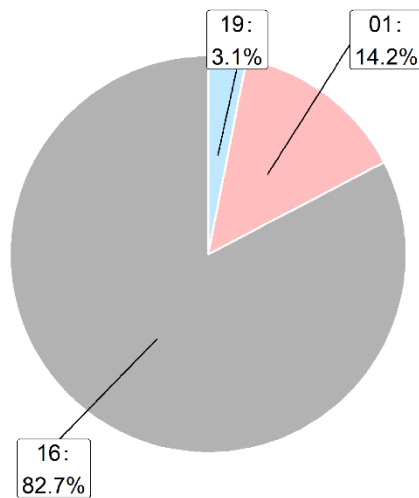
コアジサシ

<sup>1</sup> 参考：平成 29 年（2017 年）～令和元年（2019 年）に実施したヒアリング調査結果

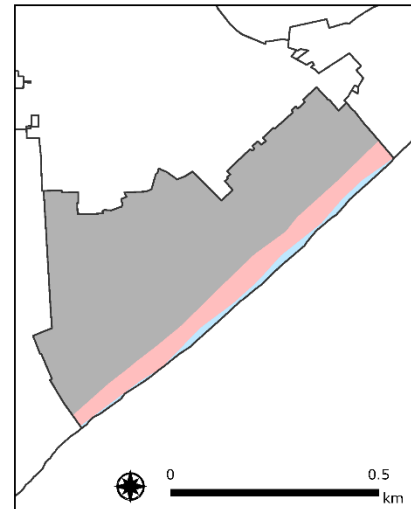
<sup>2</sup> 参考：平成 29 年度 小田原市自然環境等現況調査委託業務 文献調査結果

<sup>3</sup> 参考：平成 29 年度 小田原市自然環境等現況調査委託業務 文献調査結果

- 植生図をもとに作成された土地利用を見ると、路傍が約 8 割を占めますが、南側で相模湾に面する海岸部は自然裸地が広がっています。<sup>4</sup>



万年地区の土地利用割合



万年地区の土地利用

## 【暮らしと自然のつながり（生態系サービス）】

自然体験・観察の場や身近にある緑、食の供給や防災など、日々の生活の中で自然環境からの恩恵を受けています。

### ～文化的つながり～

- **自然体験・観察の場**：「御幸の浜」では、伊豆半島や三浦・房総半島を見渡しながら海辺の散策が楽しめる他、釣り場としても利用され、レクリエーションの場として活用されています。一方で、海岸侵食や砂浜の減少による美しい海岸線の保全が課題となっています。<sup>5</sup>
- **神社・寺院**：神社・寺院が多数あります。社寺林は、生活の身近にある緑として住環境の向上や心の安らぎに寄与します。また、一般的に神社・寺院の境内は、こどもの遊び場としても役立ってきました。「北條稲荷神社」には、小田原北条氏につながるキツネにまつわる言い伝えがあり、「龍宮神社」は古新宿（旧町名）の海の守り神とされているなど、古くから海や動物は畏怖や信仰の対象であり、人々の生活と深いつながりがあります。

#### ◆「北條稲荷神社」

その昔、小田原城内には清流が幾筋か流れており、城内の人々はその川の水を生活に利用していたことから、北条早雲は、川の流れが集まる東口（現 北條稲荷付近）に小田原城東方の守護神として社を建立したそうです。その後、氏綱、氏康も早雲同様、この社を深く信仰したと言われており、これが北條稲荷神社のはじめであるという言い伝えがあります。また、「北条五代記」「北条盛衰記」などでは、北条氏康が逝去したのは、城内で死んだ老狐の霊によるものと考えた氏康の子の氏政が、城内に老狐の霊を祀って供養をしたのが北條稲荷の起こりと伝えられ、その後、古新宿に社が建立され北條稲荷となったという説もあります。<sup>6</sup>

<sup>4</sup> 出典：日本全国標準土地利用メッシュデータ（国立環境研究所）

<sup>5</sup> 出典：小田原市環境基本計画-改訂版-（小田原市環境部環境政策課，平成 29 年（2017 年））

<sup>6</sup> 出典：地域別計画 市民の力・地域の力（小田原市，平成 23 年（2011 年））

#### ◆「龍宮神社」

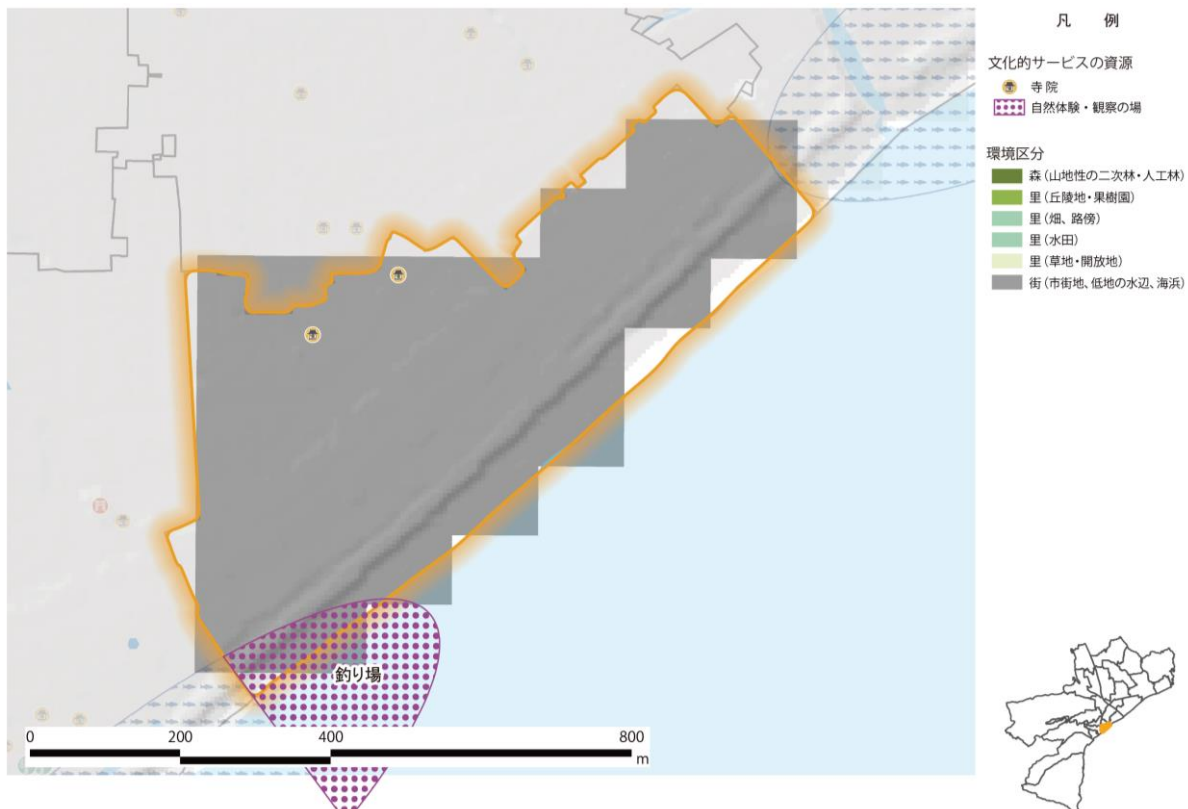
天正 18 年（1590 年）、豊臣秀吉の小田原攻めの時、加藤清正の家臣である可児才蔵の統率する熊本の八代水軍の船が小田原に上陸中、折からの台風による激浪で古新宿の浜辺に大破して打ち上げられたそうです。この水軍は有明海の不知火の光を恐れて、八代の龍宮様から御神体を奉受し、船神様として船の親柱の元に納められたものを破船の中から引き出し、古新宿の祠に安置して、龍宮社として祭ったものが八代龍神の縁起とされています。なお、その水軍で働いていた船頭や船子は近海に魚群の多い小田原の海辺に定着し、代々漁業に携わり、原住の漁師と共に集落を作ったそうです。八代龍神は昔から海の神様として漁師の信仰が厚く、船元の子どもは朝晩必ず社内にある大きな輪型の蝋燭立てに明かりを上げることを日課として行われその光は四六時中、光々として輝き絶えることがなかったと言われています。<sup>7</sup>

#### ～食のつながり～

- **水産加工品**：箱根の旅人の携帯食としても重宝されたかまぼこは、海からの恵みと箱根丹沢水系の良質な水により生まれました。小田原の地場産業として有名なかまぼこや干物は、昔は浜辺から魚の水揚げを行い、店先に並ぶ商品までの過程すべてが一連の建物の中で行われていました。<sup>8</sup>「小田原かまぼこ通り」には、かまぼこの本店の他、干物屋や鰹節屋、料亭、飲食店、和菓子屋など約 30 店舗<sup>9</sup>が軒を連ね、現在も食を供給しています。

#### ～生活環境とのつながり～

- **防災・減災**：「浜町第一公園」には松並木が残っています。海岸線沿いの松並木は、海岸沿いの街並みを作るとともに、一般的に防砂・防潮の役割を持つと言われています。



万年地区の自然環境マップ

<sup>7</sup> 出典：地域別計画 市民の力・地域の力（小田原市，平成 23 年（2011 年））

<sup>8</sup> 出典：地域別計画 市民の力・地域の力（小田原市，平成 23 年（2011 年））

<sup>9</sup> 出典：LITTLE TRIP 小田原 HP を基に作成 <http://www.odawara-kankou.com/>